# 犬飼物語

（『たんなんの民話と伝説』 丹南ライオンズクラブ より）

福知山線篠山口駅から西へ１km余り行ったところに、犬飼村の大歳神社があります。この神社には、人身御供の伝説が残っています。

昔々のある年、氏子の中に五人・七人と行方不明者が出来ました。これは神のお怒りの禍いであると言って、氏子連中が相談して人身御供をあげることに決め、くじを引いて祭りの夜に供えることにしました。

ある年の犠牲者に当たった家では、これを大変悲しみ、何とかこの災難を逃れようと、ただ一心に神にすがり、三七日のご祈祷をしました。その満願の日の明け方、一人の童子が現れて、神のお声を伝えました。

「氏子の悲歎を聞くに忍びず、霊験をもって汝らに教えよう。江州多賀明神は、伊弉冉尊を祀り、江州犬上郡にあり。元この宮も人身御供の禍いがあった。鎮平犬という犬が化け物を退治し、この厄を逃れた。今もこの犬が犬上郡にいる。借りて来て例祭の時にその犬を器に入れておけ。神は不思議な力をこの犬に与えるであろう。」

これを聞いた村人は大いに喜び、神のお告げのとおりに犬を借りて来て箱に納め、注連飾りを神前に供え、木のかげに隠れ、刀を構えて待っていました。

夜半になって、天地をゆるがす大音とともに怪物が現われ、拝殿に躍り上がり、供え物に手をかけるやいなや、中にいた鎮平犬がすごい声を出しながら、怪物に咬みつき、ともに縁から落ちて来ました。上になり下になり、ころげまわる怪物を見て、隙をうかがい数太刀切りつけ、見事怪物を退治することができました。怪物は、三眼の大狸だったということです。

その後、鎮平犬は大切に村で飼われ、村名もこのことから犬甘村を犬飼村と改められました。